

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 米国関係  
（議員等発言(2)（講演、記者会見等）

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語:<br>出版者:<br>公開日: 2019-02-14<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: -<br>メールアドレス:<br>所属:       |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43840">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43840</a> |

封米議會工作

送文 1-1 (対米) 766 (351) ファイル番号

カヒ  
万博

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政事外外官  
務務 房  
次次  
臣官官審審長  
係審文会官給  
参調折  
参領旅移

総番号 (I A) 25377 主管  
69年6月13日23時15分 米 国 発着 米 1  
69年6月14日2時24分 本 省 着 米 1

外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん交渉に関連する対米議会工作

第1837号 極秘

タナカ大使は貴大臣御帰国後引き続き更に上、下両院の外交及び軍事委員会の議員を訪問し、本件に関する打しんを行なつたがその概要次の通りの趣である。

1. 当方よりはこの段階においてはあまり具体的問題にふれることは避け、一般的表現で先方の意向を打しんと共に、好意的考慮を要請した。また、軍事委員会については先ず比かくのおん健派と見られる議員へ接しよくした。各議員は問題の重大性は認識しているが、当面の問題にぼうさつされているためか、未だ具体的関心を持つに至っていないと見られた。ただし、先方は問題が時間的に切迫しているかの点につき日本側のタイム・テーブルにつき質問し、当方より11月総理訪米の際解決を目途としており、その間外交チャネルを通じて話が進められると説明すると、未だ若干の時日があるので、よく考えて見たいとの態度であつた。

外務省

極秘

参北東経  
参中西  
参北  
参一二  
参西東洋  
参西東

参近ア  
次総経国万  
参賀統三  
参政技二  
参一理  
参協規  
参政経科  
参社専  
参道内外  
一二

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

2. 若干の議員は日本憲法、安保条約、事前協議条項、更には日本の政情につき各種の質問をした。その中にはオキナワを返かんすれば、基地を撤去しなければならないのかとか、また日本憲法が在日米軍の行動を制約するののかとの質問をする等初歩的な誤解があり、これに対しては当方よりこん切に説明しておいた。また全体として米国の軍事費節減の強い希望を表明していただいたので、当方より日本の自衛力ぜん増の状況、またオキナワ返かんによる同地域の一部経費の日本によるかたがわり、更には日本の自由アジアへの経済協力のすう勢等を相手により然るべく説明し、日本はいわゆるフリー・ライダーではないと述べたところ、この点は先方は好感をもつてちよう取っていた。

3. 接しよくした議員のうち若干は返かんは好意的に考えるとの口ふんであつたが、問題の複雑性、特に極東の安全保障への影響がどうなるかをけ念しており、問題は返かんの条件次第であるとのノンコミittalな態度をとるものが多かつた。また日本をよく知っている議員はやはり好意的であつた。問題の軍事委員会については上院のTOWNE及びYOUNG氏のごときは当方の説明をちよう取した後、返かんを支持すると明言したが、軍事委員会の保守派に対するアプローチは今後しん重に検討することといたしたい。この点國務省も同意見であり、当方に対し議会へのアプローチについてはなにかと好意的アドバイスをなし、ま

-2-

外務省

極秘

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

た当方よりもその動きを通報して緊密な連絡をとっている。

国防省と議会保守派には当然連けいがあり、また最近アメリカン・レジョンが返かん反対の決議を行なう動きがあるが、これらの点につきスナイダーは、問題は返かんの条件にあり、米政府として確信のもてる条件であれば何とか手当ができると述べている。

今後総理訪米が近づくに従い、反対派の動きが始つてくると考えられるが、わが方としては当面情勢の推移を見守りつつ、ぜん進的かつしずかに議会方面への連絡のすじを拡大して、今後起り得べき事態へ備えるべきものと思われる。またいずれ実質的交渉が妥結に近付けばホワイトハウス及び國務省を中心とする議会工作が行なわれることとなるべく、当方の動きもこれを念頭に置き、進めるべきものと思われる（安保改正の際米政府が対議会工作に異常な努力を払つたことが想起される）。

いずれ帰国の上詳細ご報告すべきも、以上取りあえず

—3— (3)